

日本研究・知的交流事業に必要な経費

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究調査〔欧〕
- (2) 日本研究客員教授派遣（自主企画）〔欧〕
- (3) 日本研究客員教授派遣（直接派遣）〔欧〕
- (4) 日本研究シニア客員教授派遣（直接派遣）〔欧〕
- (5) 日本研究客員教授派遣（経費助成）〔欧〕
- (6) 日本研究拠点機関助成〔欧〕
- (7) 日本研究スタッフ拡充助成〔欧〕
- (8) 日本研究リサーチ・会議等開催（助成）〔欧〕
- (9) 日本研究リサーチ・会議等開催（主催）〔欧〕
- (10) 日本研究組織強化支援（助成）〔欧〕

2. 人物交流事業費

- (1) 地域研究フェローシップ〔欧〕
- (2) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔欧〕
- (3) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧〕
- (4) 日本研究フェローシップ（短期）〔欧〕
- (5) 知的リーダー交流（招へい）〔欧〕
- (6) 知的交流フェローシップ（派遣）〔欧〕
- (7) 知的交流フェローシップ（招へい）〔欧〕
- (8) 知的交流フェローシップ（派遣）（中東）〔欧〕
- (9) 知的交流フェローシップ（招へい）（中東）〔欧〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的リーダー交流（国際会議出席助成・招へい）〔欧〕
- (2) 知的リーダー交流（国際会議出席助成・派遣）〔欧〕
- (3) 知的交流会議等開催（主催）〔欧〕
- (4) 知的交流会議等開催（助成）〔欧〕
- (5) 知的交流会議等開催（主催）（中東）〔欧〕
- (6) 知的交流会議等開催（助成）（中東）〔欧〕

4. 文化資料事業費

- (1) 図書寄贈〔欧〕

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費	(1) 日本研究調査〔欧〕
------------	---------------

世界の主要な地域の日本研究機関調査を実施し、日本研究機関と研究者のディレクトリーを作成する。

合計額 2,983,370円

	事業名	国	期間	事業内容
1	中東学会による日本研究調査	日本	05.12.01～ 06.03.31	日本における中東研究の現状を、教育組織、教育内容、学生数、教員数、語学教育、留学、卒業後の進路、研究活動等の項目についてのサーベイ調査とデータ処理、現状分析を中東学会に委託
2	アラビア語論文翻訳	日本	06.01.20～ 06.03.31	在サウジ地域研究ネットワークの中心的人物であるムタッバカーニーのアラビア語論文「地域研究学科設立および在サウジ研究センター」の翻訳を外部に委託
3	中村助教授サウジ派遣	サウジアラビア	05.12.16～ 05.12.24	地域研究に関心を持つ大学、研究者とのネットワークが構築されつつあるサウジアラビアに中村(助教授)を派遣、各大学・研究機関・関係省庁の訪問・視察・意見交換、日本研究を含む地域研究の状況調査およびニーズ調査を実施
4	垣内教授ヨルダン派遣	ヨルダン	05.12.03～ 05.12.10	日本研究の基盤が育ちつつあるヨルダンへ垣内(教授)を派遣し、各機関の訪問調査他、派遣期間中、死海で開催された第2回世界文化フォーラムにも参加、文化政策と知的交流に関する研究発表および文化政策立案者との意見交換を実施
5	欧州日本研究調査(2年目)	ドイツ	05.11.01～ 06.10.30	Eajsによる欧州日本研究調査の2年目であり、オンラインデータベースの完成、テストラン、機関・研究者データの入力、チェックを行なった

1. 日本研究事業費	(2) 日本研究客員教授派遣(自主企画)〔欧〕
------------	-------------------------

人文科学、社会科学分野で日本に関する講義を実施するために、海外の高等教育・研究機関に対し、日本から客員教授を派遣する。

合計額 9,595,850円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	デ・プラダ・ヴィセンテ	福岡大学講師	スペイン	06.01.28～ 06.04.15	サラマンカ大学哲学学部	日本、東アジアの文学に関する講義のため派遣
2	鈴木 英夫	白百合女子大学教授	エジプト	06.01.29～ 06.05.31	アインシャムス大学外国語学部日本語学科修士課程	エジプトのアインシャムス大学外国語学部日本語学科修士課程における日本文学および日本語学の指導のため派遣

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 (3) 日本研究客員教授派遣 (直接派遣) [欧]

海外諸大学の日本研究講座を支援するため、人文・社会科学分野の学者・研究者を派遣する。

合計額 1,480,630円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	島蘭 進	東京大学大学院 人文社会系研究 科・文学部教授	エジプト	06.02.17～ 06.04.11	カイロ大学文学 部日本語日本文 学科	カイロ大学大学院予備講座なら びに大学院の学生を対象とした 講義と研究指導のため派遣。
2	松村 昌廣	桃山学院大学法 学部教授	クウェート	06.03.11～ 06.03.20	クウェート大学	クウェート大学社会科学部学部 生および日本研究ユニットにて 研究者を対象として日本の安全 保障政策及び近現代外交史に関 する集中講義を実施

1. 日本研究事業費 (4) 日本研究シニア客員教授派遣 (直接派遣) [欧]

人文科学および社会科学分野（芸術分野を含む）で、日本に関する講義を実施するために客員教授を招へいしようとする海外の高等教育・研究機関に対し、日本国内で条件に合致する専門家を公募して派遣する。本プログラムはジャパンファウンデーションボランティア制度の一環として実施するものである。

合計額 9,486,962円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	小林 明美	大阪外国語大学 留学生日本語セ ンター教授	ハンガリー	05.04.01～ 06.01.31	エオトヴェシ・ ローランド大学 東洋学研究所	国語学と日本語教育論に関する 講義
2	菅野 昭正	東京大学教授	フランス	05.11.01～ 06.03.31	リヨン第三大学	日仏比較文学に関する講義

1. 日本研究事業費 (5) 日本研究客員教授派遣 (経費助成) [欧]

海外諸大学の日本研究講座に対し、人文・社会科学分野の学者・研究者を国外から客員教授として招へいするための経費を助成する。

合計額 7,507,064円

	団体	国	氏名	現職	期間	事業内容
1	モスクワ国立 大学附属アジ ア・アフリカ 諸国大学	ロシア	野島 陽子	東京大学大学院 助教授	05.10.01～ 05.10.31	明治時代から第二次世界大戦までの日本 史における主要問題
2	タシケント国 立東洋学大学	ウズベキス タン	小野澤 正 喜	筑波大学教授	05.08.24～ 05.10.07	日本語教育の国際化と日本文化理解、日 本文化

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	団体	国	氏名	現職	期間	事業内容
3	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	ディアコノワ・エレーナ	ディアコノワ・エレーナ	05.10.01～ 05.11.15	日本文学、日本文化
4	リュブリャーナ大学文学部	スロベニア	黒古 一夫	筑波大学図書館情報メディア研究科(大学院)教授	06.03.01～ 06.04.10	現代沖縄文学
5	ラトビア大学現代言語学部東洋学科	ラトビア	Rotermund Hartmut	フランス国立高等研究院教授	05.10.01～ 05.11.15	日本人の宗教的思考
6	マドリードアウトノマ大学	スペイン	市川 慎一	早稲田大学教授	06.02.01～ 06.03.31	現代日本語テキスト講読
7	セント・ジョゼフ大学	レバノン	花田 光世	慶應義塾大学総合政策学部教授	05.11.07～ 05.11.11	異文化経営論 I
8	セント・ジョゼフ大学	レバノン	小島 朋之	慶應義塾大学教授	06.03.04～ 06.03.07	異文化経営論 I

1. 日本研究事業費 (6) 日本研究拠点機関助成〔欧〕

海外の日本研究において特に中核的な役割を担う機関を指定して、その日本研究部門の研究費、運営費などを中長期にわたって総合的に助成する。

合計額 15,107,315円

	機関	国	期間	事業内容
1	ロシア科学アカデミー現代日本研究センター	ロシア	05.04.01～ 06.03.31	紀要MEET JAPANの発行、リサーチ・会議、論文コンクール、日本関連定期刊行物の送付、事務局経費を包括的に支援した
2	ロシア国立極東総合大学附属東洋学大学	ロシア	05.04.01～ 06.03.31	訪日研修、ロシア国内研修、論文執筆謝金、出版援助、事務局経費、図書寄贈を包括的に支援した

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 (7) 日本研究スタッフ拡充助成〔欧〕

海外の大学などが日本研究に関連した常勤の教官ポストを増設する場合、最初の3年間に限り当該者の給与と社会保障費を助成する。

合計額 5,668,101円

	機関	国	期間	事業内容
1	オックスフォード・ブルックス大学	英国	05.08.01～ 06.07.31	国際関係学（日本外交）講師への給与助成
2	ザグレブ大学	クロアチア	05.10.01～ 06.09.30	日本文学・歴史・社会学講師（日本研究科主任）の給与助成（1年目）
3	デブレツェン大学	ハンガリー	05.12.01～ 06.04.28	日本語・日本文化講師の給与助成

1. 日本研究事業費 (8) 日本研究リサーチ・会議等開催（助成）〔欧〕

海外の高等教育・研究機関が実施する日本研究に関連した共同研究・会議、セミナー・ワークショップや集中講座などについて、経費の一部を助成する。

合計額 21,035,102円

	団体	国	期間	事業名	事業内容
1	イタリア国立アジア・アフリカ学院	イタリア	05.03.20～ 06.02.28	イタリア国立アジア・アフリカ学院	19世紀における伊日関係史に関する日本資料調査
2	ミラノ国立大学 CARC	イタリア	05.10.20～ 05.12.20	ミラノ国立大学 CARC	ミラノ国立大学現代アジア研究センター開所記念シンポジウム「地域統合と東アジアにおける社会的・政治的変動」
3	SOAS	英国	05.05.10～ 05.07.10	SOAS	日本の過去と現在における縁起神話
4	英国日本研究協会	英国	05.09.05～ 06.03.31	英国日本研究協会	英国日本研究協会総会
5	ウィーン大学東アジア研究所	オーストリア	05.07.01～ 05.11.30	ウィーン大学東アジア研究所	ヨーロッパ日本研究協会博士課程在籍者ワークショップ
6	サラゴサ大学	スペイン	05.03.20～ 06.03.19	サラゴサ大学	第8回スペイン日本学研究会「日本の女性、真実と神話」
7	ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS)	ドイツ	04.07.01～ 05.11.30	欧州日本研究協会	第11回EAJS総会
8	フランス極東学院	フランス	05.04.01～ 06.03.31	フランス極東学院	日本社会におけるウチとソトの力学 学術的日仏共同研究

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	団体	国	期間	事業名	事業内容
9	フランス日本研究学会	フランス	05.12.10～ 06.01.31	フランス日本研究学会	フランス日本研究学会 第15回総会における公開講演
10	日本資料専門家欧州協会	ベルギー	05.09.20～ 05.09.25	日本資料専門家欧州協会	第16回国際日本資料専門家欧州協会研究集会
11	ウズベキスタン財政政策センター	ウズベキスタン	05.03.20～ 05.12.30	ウズベキスタン財政政策センター	日本の年金改革の経験：中央アジアにとっての教訓
12	ヴィリニウス大学	リトアニア	05.03.20～ 05.11.01	ヴィリニウス大学	新EU加盟国の大学教育におけるネットワークを形成し、よって既知の経験の共有、長期的視点に立った日本研究戦略モデルを構築
13	国立政治行政学院	ルーマニア	05.05.01～ 06.02.28	国立政治行政学院	第三千年紀初頭における行政：日本の経験をルーマニアに伝える
14	ロシア国立人文大学	ロシア	05.05.01～ 05.10.31	ロシア国立人文大学	第4回言語人類学・類型学国際会議、およびサテライト・セミナー「日本語・アルメニア語・ロシア語におけるディスコースの範疇と形成」

1. 日本研究事業費	(9) 日本研究リサーチ・会議等開催（主催）〔欧〕
------------	---------------------------

日本に関するグループ研究、調査、学術的な会議、セミナー、ワークショップ等を開催する。

合計額 1,377,768円

	団体	国	期間	事業名	事業内容
1	ロシア連続講座	ロシア	05.10.10～ 06.03.31	ロシア連続講座	対日関心の高まるロシアにおいて、一般市民の正しい日本理解を促すため、専門家による講演を行った

1. 日本研究事業費	(10) 日本研究組織強化支援（助成）〔欧〕
------------	------------------------

欧州地域の日本研究者や日本研究機関が国境や専門分野を超えて相互に連携・協力するための横断的なネットワーク形成活動を支援する。

合計額 16,994,134円

	機関	国	期間	事業内容
1	ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS)	ドイツ	05.04.01～ 06.03.31	年3回の会報発行やホームページ運営を通じ、地域内のネットワーク強化、若手日本研究者育成を図る。事務局運営費、ホームページ維持経費、データベース作成費等
2	ロシア日本研究者協会	ロシア	05.04.01～ 06.03.31	年鑑の発行、奨学金、事務局経費を包括的に支援し、ロシア域内、CIS諸国の日本研究者のネットワーク強化を図った

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	機関	国	期間	事業内容
3	ロシア日本研究者協会（スカラシップ）	ロシア	05.04.01～ 06.03.31	ロシア全域から広く募集を行ない、日本研究分野で優秀な論文を執筆した大学生、大学院生、若手研究者を顕彰

2. 人物交流事業費 (1)地域研究フェローシップ [欧]

海外において人文・社会科学の各分野での共同研究および研究の指導を主とする研究活動を行なう学者・研究者にフェローシップを供与する。

合計額 7,223,946円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	林 裕明	島根県立大学	英国	05.09.21～ 06.08.31	バーミンガム大学	ロシア・東欧諸国における体制転換と市民社会・民主主義の形成とのかかわりについて先行研究を理論的に整理した後、最新の調査データをもとに住民の社会意識、自発的組織の役割を比較検討し、学会への発表および論文執筆にて公表
2	松本 英実	新潟大学	フランス	05.10.03～ 06.10.02	ケンブリッジ大学/ストラスブール第三大学/ヴェトナム国立大学	ヨーロッパ法のアジア諸国への継受に対する比較研究

2. 人物交流事業費 (2)日本研究フェローシップ（学者・研究者） [欧]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行なう機会を提供する。

合計額 105,129,495円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	CAROLI, Rosa	イタリア国立ヴェネツィア大学カ・フィスカリ東洋学研究部助教授	イタリア	05.10.03～ 06.01.31	山梨学院大学	琉球最後の国王となった尚泰の東京における生涯
2	MIGLIORE, Maria Chiara	レッツェ大学常勤研究員	イタリア	05.10.01～ 05.12.31	人間総合科学大学	日本文学における中国文学の受容：「王昭君伝説」における和漢比較文学研究

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
3	ASTLEY, Ian	エジンバラ大学 日本研究センター上級講師	英国	05.10.01～ 06.08.31	東京大学東洋文化研究所	9世紀初期の東アジアにおける宗教、政治、物質文化：空海「請来目録」の影響
4	PIZZICONI, Barbara	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院講師	英国	05.09.07～ 05.10.03	早稲田大学大学院日本語教育研究科	敬語を越えて－日本語の待遇行動についてのディスコースを変える試み
5	WAGNER-TSUKAMOTO, Sigmund Anton	レスター大学マネジメントセンター講師	英国	05.09.07～ 06.10.04	日本経営倫理学会/神奈川大学	モラル主体、多元的共存と組織的経済再建：日本を事例に
6	BOOT, Willem Jan	ライデン大学日韓研究所日本学主任教授	オランダ	05.06.05～ 06.01.28	国文学研究資料館	皆川淇園－その「淇園答要」、「名疇」と開物学
7	THUNMAN, Noriko	ヨーテボリ大学アジアアフリカ語学科日本語科学科長、教授	スウェーデン	05.09.15～ 06.09.14	東京大学大学院総合文化研究科	日本文学史における古典形成のプロセス－ジャンルとしての俳句と芭蕉をめぐって
8	MUNOZ, Conde	パブロ・デ・オラビデ大学（セビリア）法学部教授	スペイン	05.05.09～ 05.07.07	京都大学大学院法学研究科	国際刑法
9	HACKNER, Thomas	トリアー大学助教授	ドイツ	05.09.04～ 06.02.24	早稲田大学	明治後期における風景のディスコース
10	SPIELMANN, Yvonne	ブラウンシュヴァイク芸術大学教授	ドイツ	05.08.02～ 06.03.10	情報科学芸術大学院大学	デジタル・メディア・アートにおける、表現手段の中のハイブリッドなアイデンティティーの概念について、日欧の比較分析
11	TIDTEN, Markus	ドイツ国際政治・安全保障政策研究所アジア部主任研究員	ドイツ	05.08.20～ 06.01.14	財団法人日本国際問題研究所	グローバルおよび地域的制限内の日本外交および安全保障政策
12	DE PRADO YEPES, Cesar	国連大学研究員	ベルギー	05.05.15～ 06.05.14	東京大学東洋文化研究所	ASEAN加盟国+3によるアジア地域統合の外交政策。特に多様化する地域化に、日本はどうコミットするか
13	ROBBEETS, Martine Irma	ライデン大学比較言語学部	ベルギー	05.02.05～ 05.12.05	京都大学	日本語と韓国語およびアルタイ語との関連性
14	BILETSKA, Svitlana Volodimirovna	ハリコフ国立教育大学助教授	ウクライナ	05.09.16～ 06.10.07	お茶の水女子大学大学院	児童の人格形成についての日本の概念の特徴（教育学的視点より）

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
15	SALOVA, Dita	カレル大学哲学 部比較研究セン ター講師	チェコ	04.11.20～ 05.09.30	京都大学	古代日本文化における健康と病 気の比較的視座(丹波康類著「医 心方」の分析)
16	JABLONSKI, Arkadiusz Marek	アダム・ミツ キューヴィチ大学 東洋学講座日本 語学科研究員	ポーランド	04.10.01～ 05.09.30	東京大学大学院 人文社会系研究 科	現代日本語の敬語・待遇表現・ ボライトネスの記号論・語用論
17	ZEROMSKA, Estera	アダム・ミツ キューヴィッチ大 学東洋学研究講 座極東言語研究 科教授	ポーランド	05.08.23～ 06.08.19	国文学研究資料 館(人間文化研 究機構)	日本の演劇史(古代から第二次 世界大戦の終わりまで)
18	HONDRU, Angela Varvara	ヒペリオン大学 教授	ルーマニア	05.07.03～ 06.06.30	大阪外国語大学	里神楽-人と神の和合のシンボ ル-
19	BRESLAVETS, Andrei Alexandrovich	ウラジオストク 経済大学国際関 係研究所准教授	ロシア	05.11.17～ 06.06.15	大阪大学	新しい世界秩序の形成:北東ア ジア統合プロセスの重要項とし てのアジア太平洋経済協力とい う開かれた地域概念、日本の側 面
20	GLAVEVA, Diana Georgieva	ロシア科学アカ デミー極東研究 所上級研究員	ロシア	06.03.21～ 07.03.20	横浜国立大学教 育人間科学部	日本とロシアの伝統的文化にお ける世界観の特徴
21	MAYKOVA, Nadezda Victorovna	ロシア科学アカ デミーピョートル 大帝人類学民俗 学博物館展示 部シニア・コー ディネーター	ロシア	05.09.10～ 06.09.09	国立民俗学博物 館	日本とアイヌの織物の伝統的自 然素材
22	SULEYMEANOVA, Aida Musulyevna	極東国立総合大 学東洋学大学東 洋語学科日本語 教師	ロシア	05.05.26～ 06.03.31	立命館大学文学 部	日本近代文学における与謝野晶 子の作品(短歌/歌論)
23	SUSLOV, Denis Vladimirovich	ロシア科学アカ デミー極東支部 経済研究所研究 員	ロシア	05.10.09～ 06.10.07	西南学院大学法 学部	地域間外国直接投資に対する北 東アジア地域の投資能力の影響
24	VYSOKOV, Mikhail Stanislavovich	サハリン国立総 合大学学部長	ロシア	05.07.06～ 06.07.05	北海道大学スラ ブ研究センター	19世紀から20世紀における日 本、ロシア帝国、ソ連によるサ ハリン島植民地化の歴史的出来 事

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
25	ZHURAVSKAYA, Tatiana Mikhailovna	サンクトペテルブルク国立芸術デザインアカデミー教授	ロシア	04.09.02～ 05.05.01	神戸大学国際文化学部	日本の伝統工芸とデザイン－伝統と革新－
26	BEN-RAFAEL GALANTI, Sigal	エルサレム・ヘブライ大学人文科学部/ハイファ大学人文科学部/ベイト・パール・カレッジ社会学講師(博士)	イスラエル	05.07.02～ 05.12.31	早稲田大学政治経済学部	第2次大戦後の占領時代における日本の各政党の動きから見た、戦後日本の民主化確立に関する考察
27	KOWNER, Rotem	ハイファ大学人文学部東アジア学科学科長	イスラエル	05.01.06～ 05.11.05	早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科	「身体の近代化」明治時代における西洋の人種論議に対する日本社会の反応
28	GAVAHI, Abdolrahim	シャヒード・モタッハリ大学	イラン	05.08.15～ 06.03.31	東京大学イスラム学科	神道の多角的調査研究
29	TEKMEN, Ayse Nur	アンカラ大学言語・歴史・地理学部助教授	トルコ	05.09.16～ 06.03.05	東京大学	日本語とトルコ語のコミュニケーションにかかわる諸表現の対象研究
30	MOSTAFA, Ahmed Mohamed Fathy	カイロ大学文学部日本語日本文学科助教授	エジプト	06.03.01～ 07.02.28	沖縄国際大学	戦後の沖縄文学、目取真俊(めどるま しゅん)を中心に
31	AGBU, Augustine Osita	ナイジェリア国際問題研究所上級研究員	ナイジェリア	05.05.25～ 06.04.04	アジア経済研究所	日本の鉄鋼業発展の研究とそのナイジェリアへの適用

2. 人物交流事業費 (3) 日本研究フェロースhip (論文執筆) [欧]

人文・社会科学分野の研究者で博士論文作成のため来日する必要がある者を招へいする。

合計額 35,860,001円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	MARCON, Federico	コロンビア大学博士課程	イタリア	05.10.31～ 06.12.29	早稲田大学文学部	江戸時代における知識人の起源
2	PATALANO, Alessio	フランス国立高等研究院博士課程	イタリア	04.11.01～ 05.10.31	政策研究大学院大学	現代日本の海事防衛政策

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
3	BUCKLAND, Rosina	ニューヨーク大 学博士課程在籍	英国	04.10.03～ 05.10.29	東京芸術大学美 術学部	1850年代から1890年の日本画に おける文化的継続性とその美的 呼応
4	CROSS, Barbara	ロンドン大学 SOAS博士課程	英国	04.10.02～ 05.10.01	東京大学大学院 人文社会系研究 科	近世戯作文学とパフォーマンス との関係
5	KLONOS, Georgios	スタンフォード 大学	ギリシャ	04.10.01～ 05.11.30	大谷大学	修験道：徳川時代の大峰山
6	DRIXLER, Fabian Franz	ハーバード大学 大学院博士課程	ドイツ	05.09.02～ 06.08.31	帝塚山大学	人口増殖政策と近世日本におけ る低出生カレジームの終焉
7	HOMMERICH, Carola	ケルン大学応用 社会研究所博士 課程	ドイツ	05.11.06～ 06.03.05	中部大学国際関 係学部	日独における勤労意識の変遷
8	MATTEN, Marc Andre	ボン大学中国・ 日本文化研究所 博士課程	ドイツ	04.09.18～ 05.11.18	東京大学大学院 総合文化研究科	中国ナショナリズムの構成と中 国人日本留学生の役割、中国ナ ショナル・アイデンティティの 形成について
9	SCHAEFER, Fabian	ライプチヒ大学 東アジア研究所 研究助手、博士 課程	ドイツ	04.09.01～ 05.10.18	東京大学社会情 報研究所	戦前期日本におけるメディア論 的思想－新聞学と社会学をめぐ るドイツと日本の言説空間
10	WEBER, Chantal Marie	ケルン大学東ア ジア学日本学学 部博士課程院生	ドイツ	05.05.24～ 06.07.23	大東文化大学外 国語学部日本語 学科	日本の茶の湯の宗匠を軸とする コミュニケーションネットワー ク－茶の湯のスケールフリー ネットワーク
11	DELPY, Fabienne M.	スタンフォード 大学博士課程学 生	フランス	06.01.02～ 06.06.30	慶應大学	日本の六十年代の映像論とその 実践
12	ITO, Hiromi	パリ第3大学(ソ ルボンヌ・ヌー ヴェール) /通 訳翻訳高等学院 (ESIT)講師	フランス	05.06.16～ 05.09.15	信州大学教育学 部	逐次通訳におけるスピーチ理解 の認知プロセス：ESIT日本語 セクションの学生の認知スキル 習得について
13	KOUBANYTCHBEKOVA, Baktygoul	オシエ国立大学 法学部博士課程	キルギス	04.10.02～ 05.07.31	名古屋大学法政 国際教育協力研 究センター	行政法と政府規制
14	PETKOVA, Galia Todorova	ブリティッシュ コロンビア大学 博士論文執筆者	ブルガリア	03.10.01～ 05.05.29	立命館大学文学 部	日本演劇におけるジェンダー・ セクシュアリティ・身体の構造

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
15	KOROBTSEVA, Ekaterina Sergeevna	オックスフォード大学博士課程	ロシア	04.06.21～ 05.06.20	新潟大学法学部	現代日本の結婚と子育てに関する問題点

2. 人物交流事業費 (4)日本研究フェロシップ(短期)〔欧〕

人文・社会科学分野の学者・研究者で、短期の訪日研究を必要とする者を招へいする。

合計額 15,308,997円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	MAURIZI, Andrea	カリアリ大学助教授	イタリア	05.11.28～ 06.01.24	早稲田大学	平安文学における空間移動構造と物語枠組みの研究
2	LISCUTIN, Nicola	ロンドン大学バークベック・カレッジ言語・言語学・文化大学院日本研究学講師	英国	05.05.20～ 05.06.13	－	著書「入門：日本のカルチュラル・スタディーズ」および論文「日本におけるカルチュラル・スタディーズ」執筆のための調査
3	SCREECH, Timothy (Timon) Benjamin Mark	ロンドン大学SOAS助教授	英国	05.10.13～ 05.11.23	学習院大学文学部	江戸絵画に関する研究
4	SELLNER, Manfred B.	ザルツブルク大学言語学部助教授	オーストリア	05.08.09～ 05.10.07	東京外国語大学	日本語を母語とする人のカタカナ語の発音
5	HANSSEN, Linda Maria	ロッテルダム世界博物館学芸員	オランダ	05.05.06～ 05.07.04	－	現代日本の織物
6	BARBERAN PELEGRIN, Antonio Francisco	ナバラ大学ガリーゲス・グローバル法学講座日本法科コーディネーター	スペイン	05.07.19～ 05.09.05	京都大学大学院法学研究科	日本民法（スペイン語訳）の改訂と更新
7	KULINICH, Mykola A.	外務省付属外交アカデミー学長	ウクライナ	05.10.01～ 05.11.01	－	北東アジアの地域安全保障に対する日本の政策（2000～2005）
8	KRAEMEROVA, Alice	ナーブルステク・アジア・アメリカ文化民族如区博物館キュレーター	チェコ	05.10.07～ 05.11.07	－	古写真研究（ホロウハ収集の中から）

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
9	MEDGYES, Tamas	セゲド大学人文学部比較文学学科講師	ハンガリー	05.09.01～ 05.10.01	-	都市におけるミリマリズムと文化的文脈
10	DIMITROVA, Stefania, Todorova	文化交流学「Madara-Bulgaria」基金会長	ブルガリア	05.12.19～ 06.02.16	名古屋大学	小学校における社会化のパターン
11	SOKOLOVA-DELUSINA, Tatiana Lvovna	モスクワ作家同盟翻訳部	ロシア	06.02.28～ 06.04.28	-	西行・和歌の発展におけるその役割
12	DALIOT-BUL, Michal	テルアビブ大学博士課程/ライシャワー日本研究所準研究員	イスラエル	05.07.05～ 05.07.31	-	文化的娯楽要素としての日本のケータイ
13	ELDESOUKY, Mohamed Ibrahim	アル・アハラーム新聞社国際部副部長	エジプト	05.05.31～ 05.06.30	-	日本における若年層の意識変化に関する研究：引きこもり

2. 人物交流事業費	(5)知的リーダー交流（招へい）〔欧〕
------------	---------------------

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育などの各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察などの機会を提供する。

合計額 7,370,582円

	氏名	現職	国	期間	事業内容
1	Christina Koulouri	ペロポネソス大学教授	ギリシャ	05.11.11～ 05.11.19	バルカン諸国共同歴史プロジェクトの中心メンバーであるクルリ(ペロポネソス大学教授)を招へい、バルカン諸国における地域共通の歴史認識を育む取組について、シンポジウムでの基調報告および日本側関係者との意見交換等を実施した
2	自治・分権ジャーナリストの会	ジャーナリスト	フランス	05.04.16～ 05.04.23	フランスの地方新聞社で地方分権を主に取材している記者を招へい、日本の地方や自治体、分権の実情を調査・取材する機会を提供し、帰国前に東京において公開講演会を実施
3	N. Mamadou	NGO Enda Graf Sahelプログラム・コーディネーター	セネガル	05.12.08～ 05.12.16	アフリカでのNGO活動において実績を有するママドゥを招へいし、アフリカが直面している課題、市民社会の状況、アフリカと日本との関係構築等について、シンポジウムでの発表および日本側関係者との意見交換、関係機関の訪問等を実施

欧州・中東・アフリカ交流事業費

2. 人物交流事業費 (6)知的交流フェローシップ(派遣) [欧]

諸外国において人文・社会科学分野の研究を行なう日本の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 5,914,527円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	新垣 修	志学館大学法学部助教授	アゼルバイジャン	06.02.04～ 06.03.31	国連難民高等弁務官アゼルバイジャン事務所	アゼルバイジャンの難民法：知的協力の可能性
2	今堀 恵美	東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程	ウズベキスタン	06.01.13～ 06.03.15	ウズベキスタン科学アカデミー歴史学研究所	カシュタ(刺繍)制作を通してみた独立ウズベキスタンの社会ネットワークとジェンダー
3	中西 健	日本大学大学院博士課程	キルギス	06.03.31～ 06.05.02	キルギス民族大学	キルギス共和国の民主・構造改革と同国の民族間関係-政治エリートの交代を中心に-
4	梅津 紀雄	東京国際大学経済学部講師	ロシア	06.02.04～ 06.03.25	ロシア国立人文大学	ソヴィエト・ロシアにおける戦争と芸術：メディアとしての芸術
5	一條 洋子	京都大学大学院博士課程	タンザニア	05.12.17～ 06.03.16	ソコイネ農業大学/水利・畜産開発省	タンザニア農村経済の発展に対する制度と組織の役割-ドドマ州を事例に-

2. 人物交流事業費 (7)知的交流フェローシップ(招へい) [欧]

日本において人文・社会科学分野の研究を行なう諸外国の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 13,987,268円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	ZAKHIDOV, Sherzod	戦略地域研究所研究長	ウズベキスタン	06.03.22～ 06.05.20	東京国際大学	日本のPKO政策および国際安全保障上の役割
2	TSULAIA, Ia	人材開発基金研究員	グルジア	06.01.20～ 06.03.12	法政大学	日本社会における世代間のアイデンティティの変化
3	CERNY, Jakub	西ボヘミア大学コミュニケーション論修士課程	チェコ	06.02.03～ 06.03.30	横浜国立大学	日本におけるエコ・ミュージアム：文化財保護および地域住民の参画
4	DUX, Laszlo Istvan	セゲド大学法学部労働法社会保障法学科准教授	ハンガリー	06.01.18～ 06.02.18	東京大学法学部	日本における外国人労働者の社会権保護

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
5	MIHALKA, Reka	エオトヴェシュ・ローランド大学博士課程	ハンガリー	06.03.22～ 06.05.21	京都大学	東から西へ－EZRA POUNDの詩とJ.A.M WHISTLERの絵画。二人のアメリカ人アーティストへの日本の影響、類似点と特色
6	KAHTERAN, Nevad	サラエボ大学助教授	ボスニア・ヘルツェゴビナ	06.01.16～ 06.02.16	京都大学	京都学派に照らしたボスニアパラダイムの位置付け
7	BEINORIOUS, Audrius	ヴィルニウス大学アジア研究センター所長	リトアニア	06.03.30～ 06.04.30	南山大学	伝統的な日本文化における占い－比較文化的アプローチ－
8	VELISAR, Raluca Elena	国立現代美術館芸術部長	ルーマニア	06.02.01～ 06.03.10	－	現代芸術および建築における空間の諸相
9	GAVRILINA, Elena Anatolyevna	モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国研究所研究員	ロシア	06.01.23～ 06.03.13	桜美林大学	中央アジアの環境問題
10	LEVIN, Na'ama	テルアビブ大学修士課程/講師	イスラエル	06.02.09～ 06.03.09	ジャパンウェルネス	現代日本における「痛」の社会的認識および文化的意味
11	MAGBADELO, John Olushola	アジア・アフリカ研究所リサーチ・フェロー	ナイジェリア	06.02.26～ 06.04.06	慶應義塾大学	日本と2つのコリア

2. 人物交流事業費 (8)知的交流フェローシップ(派遣)(中東)[欧]

諸外国において人文・社会科学分野の研究を行なう日本の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 17,172,760円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	福田 友子	東京都立大学大学院社会科学部研究科社会学専攻－博士課程	アラブ首長国連邦	05.06.04～ 05.09.19	Gulf Research Center	アラブ首長国連邦のドバイにある中古車市場において、パキスタン人のエスニックビジネス展開とそれに関連したコミュニティ形成過程について調査
2	水島 多喜男	徳島大学教授	アラブ首長国連邦/バーレーン	05.09.03～ 05.11.05	Bahrain Institute of Banking and Finance	湾岸産油国の証券・金融市場の研究
3	前田 君江	東京外国語大学アジア・アフリカ言語・文化研究所共同研究員	イラン	05.05.30～ 05.06.27	アフマド・シャームルー著作権管理・運営委員会	ペルシア詩を通じて見るイスラーム政権下イランの文化状況の検証

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
4	佐藤 秀信	中東調査会	イラン	06.02.01～ 06.03.15	国際問題研究所	イランにおける自給自足理念の研究
5	林 徹	東京大学教授	トルコ	05.08.03～ 05.10.03	ボアズイチ大学	現代トルコ語を形成する外来要素の研究
6	山下 王世	東京外国語大学非常勤研究員	トルコ	06.03.12～ 06.04.08	イスタンブル工科大学	トルコにおける文化遺産管理とツーリズムに関する研究
7	若松 大樹	上智大学大学院博士課程	トルコ	05.12.28～ 06.03.27	アンカラ大学神学部イスラム哲学専攻	トルコにおけるネヴルーズ祭の今日の実践の研究
8	小林 由利子	川村学園女子大学教授	ヨルダン	06.02.10～ 06.03.13	ヨルダン大学演劇学部	ヨルダンにおける児童演劇とドラマ教育
9	末吉 秀二	吉備国際大学講師	ヨルダン	05.08.03～ 05.09.16	アル・バルカ応用研究大学	イスラームがムスリムの再生産選好に及ぼす影響
10	辻村 純代	国士舘大学イラク万代文化研究所	レバノン	05.05.15～ 05.07.29	レバノン考古庁/アメリカ大学バイルート校	南レバノンにおけるローマ時代遺物の考古学的調査
11	岩崎 えり奈	N/A	エジプト	06.02.02～ 06.04.08	エジプト中央統計局	エジプトの二つの大都市における低所得者地区の発展に関する調査研究
12	岡戸 真幸	上智大学大学院博士課程	エジプト	05.12.26～ 06.03.25	アレキサンドリア大学人類学科	エジプトの出稼ぎ労働者ネットワーク-アレクサンドリア市の同郷者団体の事例から-
13	佐野 光子	慶應義塾大学SFC研究所訪問研究員(非常勤)	中東地域区分困難	05.09.20～ 05.12.20	N/A	アラブ地域における映画製作の現状調査
14	高橋 陽子	早稲田大学人間科学学術員助手	中東地域区分困難	05.07.30～ 05.09.04	ダマスカス・ワランス・アラブ研究所/アル・ジャズィーラ衛生放送局/湾岸研究所	アラブ・イスラーム諸国の民主化におけるメディアの役割と意義

2. 人物交流事業費 (9)知的交流フェローシップ (招へい) (中東) [欧]

中東に関する次世代日本人研究者を育成するためにフェローシップを供与する。

合計額 21,874,535円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	HAJAR, Zaid	アシュート大学 大学院博士課程	イエメン	05.04.01～ 05.06.07	アジア経済研究 所	冷戦終了後の日本・アラブ関係 の発展
2	MAHMMOUD Abdul-Wahid	テイクリート大 学歴史学科歴史 学科長	イラク	05.11.10～ 05.11.30	国際交流基金主 催	コア・プログラム期間中 (2005 年11月10日～30日)に、フェロー は3週間の合宿形式のセミナー にて、日本について講義、視察、 ワークショップ等で多面的な理 解・体験をし、知的交流のネッ トワークを構築
	NADIMI Homira	シャヒードベヘ シュティ大学人 文科学部社会学 科教授	イラン			
	ERKMEN Serhat Ahmet	ユーラシア戦略 研究所研究員	トルコ			
	NATSHEH Yousef Ahmad	エルサレム女性 センター広報担 当	パレスチナ			
	HAMIDOUCHE Younes	トリビューン紙 政治記者	アルジェリア			
	HUSSEIN Ebitisam	カイロ大学政治 経済学部助手	エジプト			
	TRIKI Rim	人文科学高等研 究所英語学科英 語学科長	チュニジア			
3	NADIMI Homira	シャヒードベヘ シュティ大学人 文科学部社会学 科教授	イラン	05.12.01～ 06.01.08	-	宗教と社会感情
4	NATSHEH Yousef Ahmad	エルサレム女性 センター広報担 当	パレスチナ	05.12.01～ 06.01.08	-	日本の法制度から見る平和構築 と人権
5	HUSSEIN Ebitisam	カイロ大学政治 経済学部助手	エジプト	05.12.01～ 05.12.15	-	発展途上国への伝統のインパク ト

3. 催し等事業費 (1)知的リーダー交流 (国際会議出席助成・招へい) [欧]

国内で開催される国際会議など (学会、シンポジウム、ワークショップおよび講演会を含む) において、重要な役割を担う諸外国の専門家を招へいする。

合計額 4,105,145円

	氏名	現職	国	期間	事業内容
1	BALDINI, Ugo	パドヴァ大学政 治科学部教授	イタリア	05.08.01～ 05.08.09	第6回漢字圏数学史・数学教育国際シンポジウム における特別部会「数理科学：ポルトガルと東ア ジア」

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	国	期間	事業内容
2	CERVELLATI, Elena	ボローニャ大学演劇音楽学部学芸員	イタリア	05.10.27～ 05.11.03	第2回大野一雄フェスティバル記念シンポジウム「ダンスアーカイブの現在」
3	RESELLI, Beba	造形ラボラトリー造形ラボラトリー主宰	イタリア	05.11.20～ 05.11.28	故ブルーノ・ムナーリの造形理念を継承し、現在も造形ラボラトリーを主宰しているベバにムナーリが伝えたこととイタリアでの造形教育の現状を講演
4	GIUSEPPE, Matulli	フィレンツェ市副市長	イタリア	05.12.01～ 05.12.07	伊日会議「創造都市と文化」
5	WHITLEY, Richard Drummond	マンチェスター大学マンチェスタービジネススクール組織社会学教授	英国	05.05.10～ 05.05.17	比較研究学会国際シンポジウム
6	COLE, Bruce	ヨーク大学音楽学部教授	英国	05.09.08～ 05.09.21	コミュニティ・ミュージックの概念とその教授法についてのレクチャーと実践
7	KRAUTH, Wolf-Hagen	ベルリン=ブランデルブルク科学アカデミー研究諸部門統括責任者	ドイツ	05.11.21～ 05.11.29	「国際協力によるマルクス・エンゲルス研究の可能性－MEGA2第Ⅱ部門問第12巻刊行記念－」
8	PARPOLA, Asko	ヘルシンキ大学アジア・アフリカ研究所名誉教授	フィンランド	05.05.19～ 06.05.29	創設50周年記念第50回国際東方学者会議
9	LARMINAT, Max Henri	フランス国立近代美術館ポンピドゥーセンターこどものアトリエ教育主任	フランス	05.04.25～ 05.05.07	美術教育に関心のある人々に向けて、ポンピドゥーセンター「こどものアトリエ」で教育普及のプログラムを開発したラミナによる、教育普及についての実践的かつ指導的レクチャーを実施
10	KNYAZEV, Evgenii Vladimirovich	ワフタンゴフ劇場附属国立シューキン演劇大学	ロシア	05.11.19～ 05.11.26	シンポジウム「ロシアと日本の俳優教育」
11	PLAPAN, Lilian Janice Cheruto	セタット女性組織代表	ケニア	05.11.01～ 05.11.08	国際シンポジウム「FGM問題最前線」

3. 催し等事業費 (2) 知的リーダー交流（国際会議出席助成・派遣）〔欧〕

海外で開催される国際会議、シンポジウムなどに招請され、講義、基調論文の発表を行なうなど指導的役割を果たす日本国内の人文・社会科学または芸術分野の専門家に対して助成を行なう。

合計額 522,010円

	氏名	現職	国	期間	受入団体	事業内容
1	富士谷 あつ子	京都国際文化協会常務理事	イタリア	05.11.23～ 05.11.28	ヨーロッパ日本ジェンダー研究フォーラム ローマ大学東洋研究学部	日欧双方が抱える少子化や女性の地位の低さを克服するなど共通の課題解決を目指すフォーラムにて「日本における女性の創造性について」基調講演。分科会では学際的な文化創造におけるジェンダーについて論考
2	牧田 東一	桜美林大学教授	ドイツ	05.12.18～ 05.12.23	文化外交研究所	「第3回文化と国際関係史会議」において「戦後日本の国際文化交流」をテーマとした3つの発表のうち1つを担当し、パネル司会も兼務した
3	前川 要	中央大学教授	ロシア	05.05.29～ 05.06.02	ウラジオストック国際シンポジウム2005	「中世北東アジアの動態研究－日本から「ひと、もの、わざ」を考える」をテーマに、古代・中世における北東アジアの国家、民族相互間の人、モノ、技の交流と交易について全体会の基調講演を行なうとともに、総司会を務めた

3. 催し等事業費 (3) 知的交流会議等開催（主催）〔欧〕

日本と欧州・旧ソ連の共通課題等をテーマとするセミナーやシンポジウムを開催する。

合計額 51,268,109円

	事業名	国	都市	会場	期間	共催者	事業内容
1	世界文明フォーラム	日本	東京	国連大学	05.07.20～ 05.07.22	国連大学/NIRA	世界各国から第一線の有識者が集まり、2日間の会議において20世紀の出来事からもたらされた教訓を統括し、21世紀の新たなパラダイム構築のための理論的・制度的枠組みを議論し、世界への提言を行なった。初日は非公開セッション、2日目は公開セッション

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	国	都市	会場	期間	共催者	事業内容
2	第2回日-EU シンクタンク 円卓会議	ベルギー	ブリュッセル	E P C	05.04.01～ 06.03.31 05.11.14～ 05.11.15	EPC/総合研 究開発機構	日本とEUが国際社会において共に直面する課題について、両地域のシンクタンク等の研究者が討論を実施。第2回にあたる本会議では、グローバル・ガバナンス及びEU、東アジアの地域統合、少子高齢化・人口減少問題というテーマについて討論
3	村上春樹シン ポジウム	全世界区分困難	東京/ 神戸 /札幌	東京大学そ の他	06.03.22～ 06.03.31	毎日新聞社	村上春樹の外国語翻訳者を中心とした文学関係者が東京に一堂に会し、村上春樹の国際的ブームの秘密を探り、各国における受容の共通性・相違点を明らかにするとともに、翻訳家同士のネットワーク形成を促した

3. 催し等事業費 (4) 知的交流会議等開催 (助成) [欧]

日本と欧州・旧ソ連の非営利団体が開催するセミナー・シンポジウムに対して、その開催経費の一部を助成する。
合計額 51,946,575円

	事業名	団体	国	期間	事業内容
1	日露戦争・ポーツマス講和会議 百周年記念国際 シンポジウム i n 日南市	日露戦争研究会	日本	05.05.19～ 05.05.22	2004年日露戦争百周年にあわせ、朝鮮半島や中国を戦場としたこと、欧米列強の背後での関与、結果としてのアジア民族運動の惹起等の国際関係論的視点も含めた総合的・今日的観点から再検討した。場所は小村寿太郎外相が生まれた宮崎県日南市の小村記念附属国際会議場
2	第3回日ロ・学 術報道関係者会 議	日本対外文化協会	日本	05.09.11～ 05.09.15	過去2回の会合と同様「北東アジアの発展と安定」をメインテーマとして、プーチン大統領訪日後の2005年秋にモスクワで、日露の学者・ジャーナリストが集い第3回会合を開催。会議では「北東アジアの平和のための日中口の協力関係」、「日ロのシベリア・極東開発のための経済協力」、「日ロ行動計画三年の成果と評価」等のテーマでの議論を行った。ロシア側の共催者は、世界経済国際関係研究所

	事業名	団体	国	期間	事業内容
3	言語レジームの変容：学術、経済、政治の分野におけるドイツ語と日本語の将来	ドイツ-日本研究所	日本	05.09.12～ 05.09.14	「日本におけるドイツ年2005・2006」の一環として開催した国際シンポジウム。ドイツ、日本およびオーストラリアの社会言語学の専門家が一同に会し、グローバル化の中でドイツ語と日本語の果たす役割を調べ、その結果として英語普及の圧力のもとで、代表的な学術、経済、政治分野においてドイツ語や日本語の使用率がどれくらい下がっているのかまた、ドイツ社会と日本社会にどのような影響を及ぼすかを論じた
4	人口の高齢化に対応した人的資源マネジメントと労働政策	ドイツ-日本研究所	日本	05.10.04～ 05.10.06	人口の高齢化は工業諸国ではすでに具現化が始まり、新興諸国においても10年から20年後には大きな社会的な課題となることが予測される。このような社会問題解決への道筋を示す一助となることを願って、一日目は人口の高齢化と労働政策、人的資源マネジメントを、二日目は技術形成、雇用・技能、労使関係など中心テーマとするシンポジウムを開催した
5	国際シンポジウム「文化の多様性と通底の価値－東西の対話－」	道徳科学研究センター	日本	05.11.07～ 05.11.09	ユネスコ本部（パリ）において、東アジア（日本/中国/韓国）と欧米（仏/米/英）を軸とする最先端の学識者20名から25名を招待し、3日間のシンポジウムを開催。討議された課題は「将来の人類にとっての、文明・ミニマムは何か」、「儒教的価値は西欧の価値に出会うのか」、「仏教とキリスト教に見る共有道徳は何か」、「稲作文明圏のエートスは如何なるメッセージを秘めているのか」、等
6	国際シンポジウム「未来力」を育てる脳・心・身体－新たな人間学の構築を求めて－	京都大学大学院教育学研究科国際シンポジウム企画委員会	日本	05.11.12～ 05.11.13	京都において開催された国際シンポジウム。新たな時代の専門的教養知識としての「未来力」を創出する学術講演に、仏、独、伊、英からそれぞれ第一線の研究者を招へいし、また日本側からは、臨床心理学、生命科学の専門家を招き、討議した。脳医学・心理臨床・身体論・総合人間学・歴史のジャンル別の部会を開催するが、それらは専門分科会ではなく、従来の学問枠組みを越えていく形式を取った
7	国際シンポジウム「日本（アジア）とクローデル」	クローデル歿後50年記念企画委員会	日本	05.11.26～ 05.11.27	20世紀フランスを代表する大作家にして外交官であるポール・クローデルの歿後50年を記念して企画された国際シンポジウム。クローデルの仕事「日本（アジア）とクローデル」のテーマのもとに改めて問い直し、「グローバリゼーション」が声高に唱えられる現代世界にあって、真の異文化理解、異文明間の交流とは何であるか、いかにあるべきか、を明らかにし、世界に向けて発信した

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	団体	国	期間	事業内容
8	「新しい日露関係」第2回専門家対話	安全保障問題研究会	日本	05.12.01～ 06.03.31	申請者とロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所（I MEMO）は、1973年から2004年まで22回にわたる日ロ（ソ）専門家会議を開催し、領土問題を中心に、日ロ間に横たわるさまざまな問題に関し、率直な意見交換を行ってきた。2005年は、著しい時代の変化を受け、日ロ両国が国際社会の中で果たしていくべき役割や、新たな日ロ関係のあり方など、今後日ロ両国が進むべき方途を探るべく、幅広い層の参加者を得て行なった
9	アジア太平洋EU学会第3回研究大会	慶應義塾大学	日本	05.12.08～ 05.12.10	「アジア太平洋地域とヨーロッパにおける多国籍主義と地域主義」という共通テーマのもとに、3日間の国際研究大会を開催。大会には日本をはじめとするアジア太平洋地域および欧州から研究者と実務者が参加し、報告と討議が行なわれた
10	第3回中・東欧＝21世紀フォーラム「中・東欧の地域：過去と現在」	北海道大学スラブ研究センター	日本	05.12.14～ 05.12.16	北海道大学において開催した国際シンポジウム。国内から6人、中・東欧諸国から6人、中・東欧以外の欧米諸国から2名が報告者として参加した。一般の研究者、実務会、ジャーナリスト等にも公開。会議に提出されたペーパーは、加筆訂正の後にスラブ研究センターから論文集として出版。この企画は「日-EU市民交流年」の一環とし、また東京外国語大学（EUIJ）との提携企画
11	日欧経済事情に関する会議	経済政策研究センター	英国	05.03.01～ 05.09.30	日本経済の議論の焦点を広げ、それらの議論に関連する欧州での研究と経験を日本側に示し、同時に日欧とその他の地域の経済学者の協力を強化することを目的として、国際会議を東京で開催。学者、政策決定者、ビジネス界からの参加者が、コーポレート・ガバナンスのモデルを示した。日本経済の一般的なテーマに関する研究報告書について議論し、個別セッションで日欧の経済政策の比較を行なった
12	第零次世界大戦：世界的視野から見る日露戦争	LONDON SCHOOL OF ECONOMICS	英国	05.03.23～ 05.03.26	日露戦争に関する世界的、包括的な研究であり、紛争の原因、過程、結論、影響を、軍事、政治、外交、文化、経済、社会的な側面から多角的に分析した
13	災害危機管理および緊急時対応システムに関する日英国際ワークショップ	ノーサンブリア大学災害開発センター	英国	05.06.01～ 05.10.31	日英の大学と地方自治体における災害危機管理と緊急時対応システムに関するワークショップ。防災協力の能力を向上させると共に、両国の自然災害管理システムを検証する機会とした。現存の大学レベルの防災教育教材を利用して、各地域に根ざした危機解消のための知識を融合した。また日英の取り組みを他地域の最も災害による被害を受けやすい地域における災害管理教育の促進に役立てた

	事業名	団体	国	期間	事業内容
14	終戦60周年記念事業「日英の戦争と平和、敵対と友情」	ビルマ・キャンペーン協会	英国	05.09.05～ 05.09.08	第2次世界大戦終結60周年を記念して、戦時中の日英両国の出会いと今日までの両国の関係に及ぼした影響を検証するシンポジウム
15	セッション429 東アジアのエネルギー問題への対処、その欧米への影響	ザルツブルクセミナー	オーストリア	05.12.03～ 05.12.10	セッション429に係る1名のファカルティ（講師役）および2名のフェロー（生徒役）の推薦および彼らの招へい経費を助成。同セッションは35の国から60人の若手研究者を招へいし、その分野の著名な専門家とともに7日間寝食をともにして討論した。参加者はテーマに関して多くを学ぶのみならず、世界中からの参加者とネットワークを築く機会を得た
16	小型武器に関するGeneva Process会合	ジュネーブフォーラム	スイス	05.04.01～ 06.03.31	1年に10億ドルともいわれる小型武器の違法取引を絶やすための国際的なプロジェクト。このプロジェクトは28政府機関、7国際機関および8NGOによって構成され、2002年5月から2004年12月に渡り17回の会合を開催し「国連小型武器行動計画」の履行に関する戦略を練ってきた
17	拡大1年後のEU	ベルリン日独センター	ドイツ	05.06.28～ 05.06.28	2005年5月の10カ国EU加入というEUの発展と経験を省みる良い機会に、日EU市民交流年の枠組の中でEU拡大に関する情報を提供。また、EU拡大が構成国に与える影響、海外投資促進に寄与するか否かを検討した。会議は3セッションで、①ビジネスの場としてのヨーロッパ、②新しい法的貿易規制の概観、③EU拡大の継続的プロセスの概観
18	世界におけるアメリカ・日本・ドイツの共同責任	ベルリン日独センター	ドイツ	05.11.10～ 05.11.11	真の政治的国際秩序には、明確に定義された倫理上の原則が必要であり、グローバリゼーションには信頼できる国際秩序の枠組みが必要である。将来のグローバル・ガバナンスを考える上で、国連改革と国際機関の役割は特に重要な課題である。この会議では、アメリカ、日本、ドイツ3カ国のこれらの問題への見解を話し合い、世界秩序における3カ国の協力を模索した
19	日本と欧州の邂逅：発見のイメージ	ストラスブール第2大学	フランス	05.11.15～ 06.03.31	日欧の学際的な研究者が集い、16世紀から今日までの日本と欧州の出会いをテーマに、宗教、科学、文学・コミュニケーション、思想・哲学の4分野で研究する研究会。日-EU市民交流年に合わせた企画

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	団体	国	期間	事業内容
20	異文化間対話と紛争防止：民主的市民主義のための文化統合への挑戦	欧州評議会	フランス	06.03.17～ 06.03.18	「異文化間対話と紛争予防」プロジェクトの4年目。48カ国・地域から約80人の参加者が集い、文化的な生活へのアクセスと参加、都市部と周辺地域のジレンマ、責任の共有というテーマについて話し合った。今日起こりつつある様々な問題に対処するために、相互の配慮と尊重を推進すること、そして文化的な生活への平等な参加を文化、宗教、居住地、世代を超えて全てのコミュニティに保証することを目標とした
21	知識社会におけるEUと日本の国際的役割	汎欧州政策研究会	ベルギー	05.11.28～ 05.11.29	知識社会は現在の国際関係における新たな政治的・経済的キーワードであり、日欧共通の課題である。日本も欧州も、より広い国際的な影響力を持ち、効果的な多国間主義と危機管理を実現したいと願い、グローバル化の中で、経済的社会的モデルの再構築を行なっている。この会議では知識社会を共通のテーマとして議論し、日欧の研究者のより強い協力関係を確立することを目指した
22	アジアと世界の安全保障	リスボン工科大学	ポルトガル	05.11.14～ 05.11.17	世界の様々な地域からアジアの安全保障の専門家を招き、多様な視点からアジアと世界の安全保障について話し合う会議を開催した。ポルトガルの一般市民、メディア、公的機関や企業の幹部らに、アジア地域の主要な関心や、それらが世界の他の地域にどのような影響を与えているかについて、広く情報を提供することも目的とした
23	西バルカン諸国における民族融和	欧州平和発展研究所	セルビア・モンテネグロ	05.03.01～ 05.12.31	2004年に日本政府主催により開催した「西バルカン平和定着・経済発展閣僚会合」のフォローアップ会議。会議の目的は国内機関、国際機関および個人の協働体制構築に貢献すること、民族間、宗教間および文化間の緊張を緩和すること。西バルカン域内の知識人、公務員を集めて行なわれ、他の国や国際機関からの参加も得た。現在の民族間および宗教間関係を議論し、問題克服のための方途を探った
24	南東ヨーロッパにおける安全保障と安定	民主主義研究所	ブルガリア	05.03.01～ 05.10.30	2004年に日本政府主催により開催した「西バルカン平和定着・経済発展閣僚会合」のフォローアップ会議。南東ヨーロッパの安定と発展のために、利害関係者を国内および外国から集めて会議を行なった。バルカン諸国からは政府の参加を得、EU、NATOその他国際機関、NGO、メディアからも参加を得た
25	国際会議：グローバル化とリスクマネジメント－西洋の技術と日本の機知	ニッポニカ基金	ルーマニア	05.06.01～ 06.03.31	米国や欧州で発達したリスク管理技術を採用してきた日本の方法をルーマニアのような理論的・实际的経験の不足した国に導入することを目的とした会議

	事業名	団体	国	期間	事業内容
26	ロシア極東の環太平洋諸国との経済統合への適応にとっての問題と条件	ウラジオストク国立経済サービス大学	ロシア	05.10.12～ 05.10.15	ロシアの環太平洋経済統合に関する国際フォーラムの3回目。学者・研究者、ビジネスマン、関係国の行政関係者らの、「ビジネス界の国際関係発展の傾向と諸問題」、「経済協力発展のための科学的・学術的活動の重要性」、「ロシア極東の環太平洋経済圏参入のための国際経済プロジェクトの重要性」、「ロシア極東への投資呼び込みについての政治的・法的リスク分析」等について議論を行なった

3. 催し等事業費 (5) 知的交流会議等開催（主催）（中東）〔欧〕

日本と諸外国の相互理解の促進とより緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進することを目的とした、国際的な共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップなど）を開催する。

合計額 32,549,956円

	事業名	国	期間	事業内容
1	第3回中東文化交流・対話ミッション	サウジアラビア アトルコ チュニジア	05.09.13～ 05.09.23	トルコ、サウジ、チュニジアに各界の日本人有識者を派遣し、「開発と文化」、「伝統と近代化」の問題に関するシンポジウム、講演会、要人との知的対話を実施
2	第1回アジェンダ・セッティング（エジプト）	エジプト	05.03.25～ 05.04.03	日本とアラブ諸国の政策研究の専門家が一堂に会し、双方が共同で討議すべき優先的アジェンダを設定。第1回をカイロで開催。アル・ハラーム戦略研究所との共催
3	第2回アジェンダ・セッティング	全世界区分困難	05.12.08～ 05.12.15	日本・アラブの国際政治・経済等の専門家が一堂に会し、これまで不十分であった政策研究分野における日・アラブ間の対話において優先的に取り上げるべきアジェンダ、およびアジェンダ毎の有効な事業実施方法を検討。公開のシンポジウムも開催した

3. 催し等事業費 (6) 知的交流会議等開催（助成）（中東）〔欧〕

中東との知的交流に資するセミナーなどの催しを支援する。

合計額 1,925,130円

	事業名	団体	国	期間	事業内容
1	国家と宗教の分離は民主主義の条件か？	中東民主化における国家・宗教関係研究会	全世界区分困難	06.02.12～ 06.02.12	中東民主化における国家・宗教関係研究会の主催する事業「国家と宗教の分離は民主主義の条件か？」は、中東における民主化の方向性を問う現代社会の重要課題の討議と、日本と中東、さらにヨーロッパとの相互理解促進を目的とした

欧州・中東・アフリカ交流事業費

4. 文化資料事業費 図書寄贈(欧)

海外の日本研究・教育機関や公共図書館などに日本関係図書等を寄贈。日本に関する理解・研究を促進するため国際交流基金が図書を購入し、申請機関に送付する。

合計額 45,354,560円

	国名	機関名	送付部数(冊)
1	アイスランド	アイスランド国立大学	41
2	イタリア	ヴェネツィア大学 東アジア研究科	43
3	イタリア	サッサリ大学	11
4	イタリア	ナポリ国立大学「オリエンターレ」	74
5	イタリア	フィレンツェ大学	63
6	イタリア	国立ミラノ-ビッコカ大学	125
7	英国	シェフィールド大学	27
8	英国	ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ	40
9	英国	大英図書館	11
10	オランダ	ライデン大学 日本研究センター	39
11	スイス	チューリッヒ大学東洋学部日本学科附属図書館	80
12	スウェーデン	ルンド大学	57
13	スペイン	コンプルテンセ国際研究所	24
14	スペイン	バリャドリド大学アジア研究センター	32
15	スペイン	バルセロナ大学	125
16	スペイン	マドリード自治大学東アジア研究センター	32
17	デンマーク	王立図書館	18
18	ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルグ大学	13
19	ドイツ	デュッセルドルフ大学東アジア研究所	21
20	ドイツ	ハイデルベルグ大学	26
21	ドイツ	フランクフルト大学 日本学科	42
22	ドイツ	ボン大学	16
23	ドイツ	マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク大学	36
24	ドイツ	東アジア美術館	19

	国名	機関名	送付部数(冊)
25	ノルウェー	ベルゲン大学	53
26	フランス	コレージュ・ド・フランス 日本学高等研究所	3
27	フランス	ストラスブール第2大学 日本学科	49
28	フランス	トゥルーズ・ル・ミライユ大学	53
29	フランス	リール第3大学 ロマンズ・スラブ・東洋研究学部	84
30	フランス	リヨン第3大学	82
31	ベルギー	アントワープ国立大学	58
32	ルクセンブルグ	国立図書館	39
33	アゼルバイジャン	バクー国立大学	61
34	ウクライナ	ウクライナ国立科学アカデミー	30
35	エストニア	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学	88
36	エストニア	エストニア国立図書館	41
37	カザフスタン	カザフ国立図書館	46
38	キルギス	キルギス民族大学	55
39	グルジア	トビリシ・アジアアフリカ大学	33
40	クロアチア	ザグレブ大学哲学科	48
41	スロバキア	コシツェ国立科学図書館	123
42	タジキスタン	タジキスタン国立言語大学	125
43	チェコ	ナーブルステク文化民族博物館	16
44	チェコ	マサリク大学	24
45	ハンガリー	デブレツェン大学	38
46	ハンガリー	ハンガリー芸術学院	33
47	ハンガリー	ハンガリー国際関係研究所	31
48	ハンガリー	ブダペスト商科大学	39
49	ベラルーシ	ベラルーシ国立大学	10
50	ポーランド	アンジェイ・フリチ・モジェフスキ大学	125
51	ポーランド	ワルシャワ経済大学	47

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	国名	機関名	送付部数(冊)
52	ポーランド	国立ウッジ大学	44
53	ポーランド	日本技術美術センター	49
54	モルドバ	モルドバ日本交流財団	125
55	リトアニア	ヴィルニウス・ゲディミナス技術大学	125
56	ルーマニア	ディミトリエ・カンテミール キリスト教大学	63
57	ルーマニア	ブカレスト大学 外国語学部	69
58	ロシア	カムチャッカ州クラシェニンニコフ学術図書館	38
59	ロシア	サハリン州立図書館	40
60	ロシア	ブリヤート国立図書館	50
61	ロシア	モスクワ・クレムリン博物館	41
62	ロシア	ロシア科学アカデミー社会科学情報学研究所	89
63	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルグ支部	25
64	ロシア	東洋大学 日本語学部	30
65	アフガニスタン	カブール大学	15
66	アラブ首長国連邦	高等技術大学(HCT)アブダビ男子校	125
67	イエメン	イエメン・日本友好協会	125
68	イスラエル	ティコティン日本美術館	56
69	イラン	議会図書館	35
70	カタール	カタール大学 図書館	41
71	クウェート	クウェイト大学	24
72	トルコ	エルジェス大学 文理学部	55
73	トルコ	ボアジチ大学	22
74	ヨルダン	ヨルダン大学 図書館	84
75	レバノン	国立レバノン大学	63
76	エジプト	アレキサンドリア図書館	55
77	スーダン	スーダン国立図書館	125
78	スーダン	ニーレン大学	123

	国名	機関名	送付部数(冊)
79	エチオピア	エチオピア国立図書館	52
80	ケニア	エガトン大学図書館	52
81	ジンバブエ	ミッドランド大学	123
82	タンザニア	ムベヤ州立図書館	123
83	マダガスカル	アンタナナリボ大学図書館	55
84	モザンビーク	ムッサ・ビン・ビーク大学	123
85	南アフリカ共和国	ヴィットバータースランド大学	48